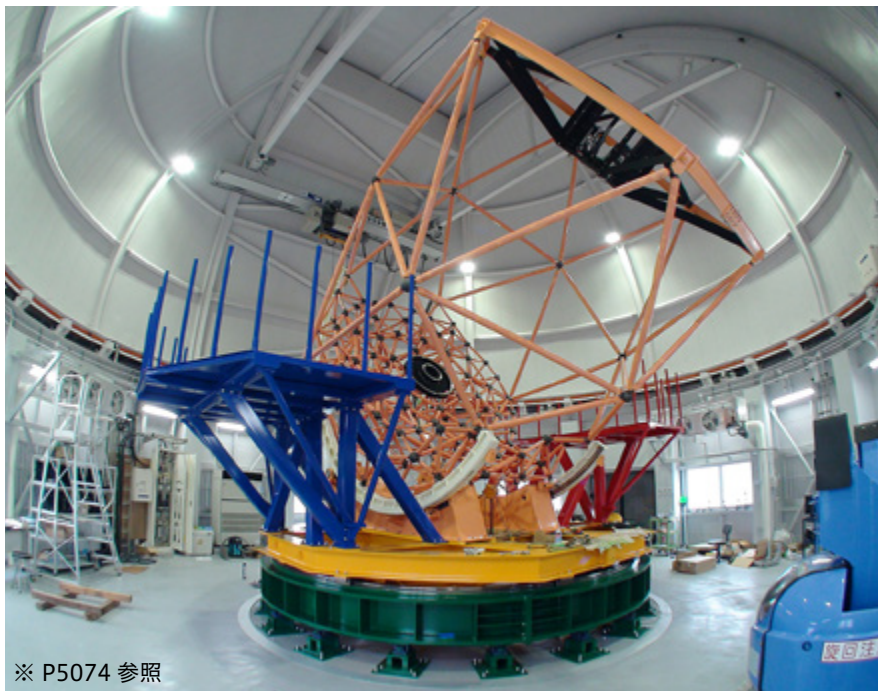


京大 広報

Kyoto University



※ P5074 参照



※ P5054 参照



※ P5065 参照

2018.7
No. 736

目次

[大学の動き]

- 京都大学業務支援室発足式を開催 5054
- 京都大学春秋講義(平成30年度春季講義)を開催 5054
- クロックタワーコンサートを開催 5055
- 京都大学と京都府が植物多様性保全に関する教育および研究の連携協定を締結 5056
- ASEAN 拠点がタイ王国で NGO の認可を取得 5057
- 第6回 HeKKSaGOn(日独6大学ネットワーク)学長会議に山極壽一 総長はじめ本学教職員および学生が参加 5057
- 稲葉カヨ 理事・副学長が第5回 ASEAN-Japan ワークショップに出席 5059
- 湊長博 理事・副学長が、北京大学 120 周年記念式典に参加し、清華大学副学長を表敬訪問 5060
- 平成30年度総長裁量経費採択事項 5061
- 京大オリジナル株式会社を設立 5065

[部局の動き]

- ヘキサゴン・スプリングスクールを開催 5066
- 野生動物研究センター創立10周年記念事業を開催 5067
- 「医学物理・医工計測グローバル拠点」設立記念シンポジウムを開催 5068

[寸言]

- 生き方の自由度 佐野 陸典 5070

[随想]

- 入試改革の渦中で 5072
名誉教授 大塚 雄作

[話題]

- ハラスメント窓口相談員のための研修会を実施 5074
- アジア最大級の望遠鏡の愛称「せいめい望遠鏡」に決定! 5074
- 平成29年病院長賞表彰式を挙行 5075
- 宇治キャンパスで「平成30年度新任教職員及び新入院生等のための安全衛生教育」を開催 5076
- 京都大学研究資源アーカイブが新たな資料を公開 5076

[訃報]

- 小林 昭一 名誉教授 5078
- 矢島 治明 名誉教授 5079
- 白土 博通 教授 5080



京都大学



京都大学業務支援室発足式を開催

京都大学は、4月1日付けで「京都大学業務支援室」を設置しました。

「京都大学業務支援室」は、WINDOW構想(Diverse and Dynamic)におけるダイバーシティ推進の下、障害者雇用の促進の一環として設置され、キャンパス内の事務支援業務や附属病院等の清掃業務に取り組んでいます。

5月23日(水)に開催した発足式では、まず森田正信 総務担当理事より発足に当たっての訓示があり、続いて業務支援室員が今後の抱負などを話しました。その後、理事をはじめとした関係者との懇談があり、和やかな雰囲気の中、発足式は終了しました。

本学では、今後も業務支援室を中心として障害者雇用の促進し、障害者が生き生きと働く場の拡大に努めていきます。



業務支援室集合写真



業務支援室看板設置

(総務部(人事課))

[目次に戻る ↗](#)

京都大学春秋講義（平成30年度春季講義）を開催

京都大学春秋講義は、京都大学における学術研究活動の中で培われてきた知的資源について、広く学内外の人々と共有を図るため、1988年秋から開講している公開講座です。

本年は、明治元年から150年の節目にあたり、今回は、メインテーマを「明治時代を考える」として3回講義を行いました。1回目の4月11日(水)は小山静子 人間・環境学研究科教授による「「家」の教育から学校教育・家庭教育へ」、2回目の4月18日(水)は伊藤孝夫 法学研究科教授による「裁判所の誕



会場の様子

大学の
動き

生—明治の裁判制度改革」, 3回目の4月23日(月)は藤田正勝 名誉教授による「フェノロサとケーベルと西田幾多郎—哲学から見た明治」と題して講義を行いました。3日間で737名の参加があり, 講義後には活発な質疑応答が行われました。

参加者からは, 「家庭教育と「家」の教育の違いが理解できた。学校教育の成果が家庭教育の成果にあることに気づいた」, 「裁判所の歴史を日本史とともに知ることができ, 理解が進んだ」, 「なじみのない哲学について, 興味深く聞くことができた」などの感想が寄せられました。

(総務部(渉外課))

[目次に戻る](#)

クロックタワーコンサートを開催

京都大学と京都市立芸術大学が主催して毎年開催している「クロックタワーコンサート～京都大学と京都市立芸術大学による交流の午後～」を, 5月26日(土)に百周年時計台記念館にて開催しました。今回は, 「コンサート&レクチャー“フィガロはいつも大忙し!”」と題し, 下野竜也 京都市立芸術大学音楽学部教授による解説のもと, 同大学アカデミーオーケストラの演奏に同大学大学院声楽専攻生が加わって, コンサートを行いました。

コンサートでは, 本学より山極壽一 総長が開会の挨拶を行った後, 前半では, G.A. ロッシーニの歌劇「セビリアの理髪師」から「序曲」, 「夜明けの空は」および「今の歌声は」, 後半は, W.A. モーツァルトの歌劇「フィガロの結婚」から「序曲」, 二重唱「5…10…20…30」, 「お受け下さい, 愛の神様, なにがしかの慰めを」および「皆の者, 武器を取れ, 武器を!」などが披露されました。曲の合間には, 下野教授によるレクチャーもあり, 最後の楽曲が終わると, 出演者の情感たっぷりの演技と歌そして演奏に惜しめない拍手が送られ, 熱気と余韻に包まれたままコンサートは終了しました。



コンサートの様子

大学の
動き

参加者からは、「主人公が共通の2作品を同時に楽しめてよかった」、「下野さんのユーモアたっぷりのレクチャーでとてもよかったです。調の色あいのことも印象に残りました」「若い学生さんのいきおいが感じられてよかった」、「野外コンサートのような自由なのびやかさで心から楽しむことができました」などの感想が寄せられました。

(総務部(渉外課))

[目次に戻る ↗](#)

京都大学と京都府が植物多様性保全に関する教育および研究の連携協定を締結

京都大学と京都府は、植物多様性保全に関する教育および研究の連携に関する協定を6月13日(水)に締結しました。

この協定は、京都府立植物園と本学理学研究科、農学研究科、人間・環境学研究科、総合博物館およびフィールド科学教育研究センターが中核となり、絶滅危惧植物をはじめとする植物の保全に関する教育および研究の連携を図り、野生植物等の保全のための「種の保存」と「環境教育」を実践することを目的としており、教育・研究を通じて調和ある地球社会に貢献するという本学の理念に沿うものです。

山極壽一 総長はあいさつで、双方が協力して進めるさまざまな取り組みは、野生植物等の種の保存、多様性の維持に寄与するものであり、この連携により、植物園は「自然への窓」として、大学は「自然や新たな学問分野への道先案内人」として、地球社会において重要な役割と責任を果たすことを願うと述べ、西脇隆俊 京都府知事と握手を交わし、互いに協力し合うことを確認しました。



協定の締結

調印後、記者からの本協定締結の双方のメリットに関する質問に対し、戸部 博 京都府立植物園園長は、本学と連携することにより社会への「教育」だけでなく、「研究」にも資することができる、瀬戸口浩彰 地球環境学堂教授は、植物園が有する植物を生育する技術を得ることにより希少植物の保全や解析等の研究を深めることができると話しました。

(総務部(渉外課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

ASEAN 拠点(タイ王国)で NGO の認可を取得

ASEAN 拠点(タイ王国・バンコク)は、2018年3月7日(水)にタイ王国労働省外国機関認可審査委員会より NGO の認可を得て、同年5月24日(木)に同国同省 Supapitchaya Ruengves 労働専門官より、柴山 守 ASEAN 拠点所長が認可証明書を授与されました。

これを契機として、ASEAN 拠点は本学ならびに日本・ASEAN 諸国の大学および研究機関との教育・研究支援をさらに強化・拡充してまいります。



右より、NGO 認可証明書を受領する柴山 ASEAN 拠点所長、Ruengves 労働専門官

(企画・情報部(企画課))

[目次に戻る ↗](#)

第6回 HeKKSaGOn(日独6大学ネットワーク) 学長会議に
山極壽一 総長はじめ本学教職員および学生が参加

第6回 HeKKSaGOn(日独6大学ネットワーク)学長会議が、大阪大学で4月12日(木)から2日間開催され、本学からは山極総長、稲葉カヨ 理事・副学長をはじめ、教職員32名および学生2名が参加しました。今回のテーマは、「Enhancing social impact and visibility through the next phase of collaboration」で、日独から約200名の参加者が集まりました。HeKKSaGOn学長会議は加盟校の持ち回りで開催されており、今回で加盟している6校を一巡したことになります。

初日の全体会議は、西尾章治郎 大阪大学総長による開会の挨拶で開幕し、牛尾則文 日本学術振興会(JSPS)理事、Thomas Hirth カールスルーエ工科大学副学長、Werner Köhler 大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事からの挨拶と、JSPSの山口英幸 国際事業部人物交流課長、ドイツ学術交流会(DAAD)のDorothea Mahnke氏、ドイツ研究振興協会(DFG)のJörg Schneider氏からそれぞれの助成事業の紹介の後、柳田敏雄 大阪大学脳情報通信融合研究センター長から、ヒト脳機能のイメージングと情報科学が融合した新しい脳科学研究について基調講演があり、最新の研究内容を紹介されました。

引き続き、HeKKSaGOnの枠組みの中で活動している8つの研究分野のワーキンググループから、これまでの活動報告があり、ワーキンググループ内での交流やワークショップの開催など、活発に研究交流が行われていることが報告されました。初日の最後には、6学長が翌日の学長会議に向け、今回の全体テーマに沿ってHeKKSaGOnの活動方針や今後の課題についてそれぞれの見解を発表しました。

2日目の午前は、学長および副学長が参加する学



山極総長による講演

大学の
動き

長会議において、HeKKSaGOnの今後の活動方針について集中した議論が行われました。並行して、今回よりワーキンググループ候補として新たに加わったRenewable Energyの分野も含めた8つの分野の研究セッションと、”Sustainable Development Goals” (SDGs: 持続可能な開発目標)をテーマとした学生ワークショップも開催されました。午後の全体会議では、午前中に並行して開催された学長会議、研究セッション、学生ワークショップの3つについて報告が行われました。

最後に、6大学学長が、研究ワーキンググループのあり方や学生交流等について今後の活動方針を記した共同声明書に署名し、会議は終了しました。次回は2019年9月にドイツ・ハイデルベルク大学で開催される予定です。

■HeKKSaGOn (ヘキサゴン) とは

2010年、日本側から京都大学、東北大学、大阪大学、ドイツ側からハイデルベルク大学、ゲッティンゲン大学、カールスルーエ工科大学の計6大学が、両国の科学と知識の進歩向上を目指す学術交流を目的として設立したもので、6大学が所在する都市 (Heidelberg, Kyoto, Karlsruhe, Sendai, Göttingen, Osaka) の頭文字等を取ってHeKKSaGOnと命名されました。主な活動として、日独6大学学長会議、研究セッション、博士課程学生サマースクール等を開催しています。本学は日本側幹事校として、ドイツ側幹事校ハイデルベルク大学との調整役を務めています。



2日目の学長会議の様子



山極総長と学生ワークショップに参加した本学学生2名



学長会議出席者集合写真

【関連リンク】

HeKKSaGOn

<http://www.hekksagon.net/>

Kyoto University: Global Engagement 「HeKKSaGOn」

<http://www.oc.kyoto-u.ac.jp/network/hekksagon/>

(企画・情報部 (国際交流課))

[目次に戻る ↗](#)

稲葉カヨ 理事・副学長が第5回 ASEAN-Japanワークショップ に出席

4月26日(木)にフィリピンのセブ州にて、第5回 ASEAN-Japanワークショップが開催され、本学からは稲葉理事・副学長が出席しました。

本会議は、STSフォーラム(科学技術と人類の未来に関するフォーラム)が毎年ASEANで開催するワークショップで、日本・ASEAN双方から産官学の代表者らが参加し、ネットワークづくり、現在の課題についての話し合い、国際社会のニーズに応えるための科学技術協力の可能性を探る場となっています。

今回は「技術移転」と「人工知能とソサエティ 5.0」をテーマとして、STSフォーラム、フィリピン科学技術省(DOST)、フィリピン商工会議所(PCCI)、日本貿易振興機構(JETRO)による共催、在フィリピン日本国大使館、フィリピン日本人商工会議所、セブ日本人商工会議所の後援により開催されました。ASEAN諸国や日本の大学、研究機関、政府関係機関、企業から合わせて120名以上が参加しました。

会議は、尾身幸次 STSフォーラム創設者兼理事長の歓迎の挨拶、George Barcelon フィリピン商工会議所会長、入野泰一 日本貿易振興機構理事、羽田浩二 駐フィリピン大使による開会の挨拶で始まりました。続いて Fortunato De La Peña 科学技術省大臣による基調講演が行われ、「Collective Prosperity (地域全体の繁栄)」に向けての取り組み、人類のための科学の活用という包括的な目標に触れ、技術発展による協働の機会が増える中、ASEAN-Japanワークショップのように直接話し合う機会が協力関係を築く上で引き続き重要になると強調されました。

会議は、基調講演に続き、2部構成の発表・討論形式で行われ、午前のセッション1では「日



会場の様子



講演する稲葉理事・副学長

大学の
動き

本・ASEAN間の科学・技術協力：技術移転の促進」について、午後のセッション2では「人工知能とソサエティ5.0」について議論されました。各セッションでは、8～9名の参加者のプレゼンテーションの後、グループによるディスカッションと発表が行われました。

稲葉理事・副学長は午前のセッション1で、研究成果の特許出願を支援する関西ティー・エール株式会社、研究成果の事業化を目指す企業を支援する京都大学イノベーションキャピタル株式会社といった本学子会社の活動を含め、本学が進める技術移転の取り組みについての発表を行いました。

次回、第6回ASEAN-Japanワークショップは2019年にシンガポールで開催予定です。また、第15回STSフォーラム年次総会は2018年10月7日～9日に京都で開催される予定です。

(企画・情報部(国際交流課))

[目次に戻る ↗](#)

湊 長博 理事・副学長が、北京大学 120 周年記念式典に参加し、清華大学副学長を表敬訪問

5月4日(金)に北京で開催された北京大学120周年記念式典・北京フォーラムに、総長の代理として湊理事・副学長が参加しました。

北京大学と京都大学は1983年に学術交流協定を締結し、その後、研究・教育交流を活発に行っています。



ウェルカムレセプションの様子

5月3日(木)には、ウェルカムレセプションが開催され、多くの大学からの参加者と交流を行いました。

5月4日(金)に北京大学体育館で開催された記念式典には、44の国と地域の100校以上の教育機関から500名を超える学長・副学長等の代表者が招かれ、盛大に開催されました。同日午後には北京フォーラムの開会式とレセプションパーティーが釣魚台国賓館でとり行われました。

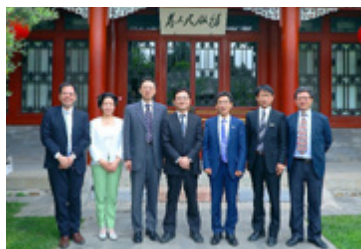


清華大学への表敬訪問

5月5日(土)には、同じく本学協定校である清華大学のXue Qikun 副学長を表敬訪問し、本学との今後の教育・研究交流について意見交換を行いました。また、清華大学の100%出資会社である清華ホールディングスを訪問し、大学シーズを社会に還元する仕組みと運営についての成功例を伺いました。



Xue 副学長と湊理事・副学長



集合写真



清華ホールディングス訪問

(企画・情報部(国際交流課))

[目次に戻る ↗](#)

平成30年度 総長裁量経費採択事項

平成30年度の総長裁量経費については、下記の45件が採択されました。

採択事項および対象部局等は次のとおりです。

| プロジェクト等事項名 | 部局名 | 関連部局 |
|---|------------------|---|
| 卓越した課程博士論文の出版助成事業 | 文学研究科・文学部 | |
| 若手研究者出版助成事業 | 教育学研究科・教育学部 | |
| 若手研究者に係る出版助成事業 | 法学研究科・法学部 | |
| 技術革新がもたらす新たな法的課題に関する国際的共同研究 | 法学研究科・法学部 | |
| 海外フィールド調査をベースとする経済学分野の教育研究活動を支える国際連携指導と国際共著論文数の増加に向けた取組 | 経済学研究科・経済学部 | |
| 若手研究者の優秀学位論文等出版事業 | 経済学研究科・経済学部 | |
| 京都を中心とする連携型社会科学系アーカイブズの形成事業 | 経済学研究科・経済学部 | |
| 化学教育におけるグローバル人材育成と国際化教育事業（外国人学者の招聘による集中講義） | 理学研究科・理学部 | |
| 京都大学から発信するシチズンサイエンス（市民科学）の推進事業 | 理学研究科・理学部 | 学際融合教育研究推進センター（アカデミックデータ・イノベーションユニット） |
| 世界で活躍する医師・医学研究者を育成するための医学教育国際化プロジェクト | 医学研究科・医学部 | |
| 次代を担う研究者育成基盤としての能動型少人数学修プログラムの展開 | 薬学研究科・薬学部 | |
| 海外拠点への現地資本導入を目指したオンサイト環境教育・研究推進事業 | 工学研究科・工学部 | 地球環境学堂, 複合原子力科学研究所 |
| 京都・パリ友情盟約締結60周年関連事業—都市デザイン国際ワークショップ「都市の中の自然／自然の中の都市」 | 工学研究科・工学部 | |
| 北大路プロジェクト 学生によるシェア建築への現代集合知学講義招聘事業 | 工学研究科・工学部 | 人間・環境学研究科 |
| わが国の衛生・環境工学研究を牽引した京大レガシーの出版と展開事業 | 工学研究科・工学部 | 地球環境学堂, エネルギー科学研究科, 複合原子力科学研究所, 環境安全保健機構 |
| 「Chem-E-Car 実習」創設事業 | 工学研究科・工学部 | |
| 若手研究者出版助成制度 | 人間・環境学研究科・総合人間学部 | |

大学の
動き

| プロジェクト等事項名 | 部局名 | 関連部局 |
|---|-----------------|--|
| アジア・アフリカにおいて持続的生存基盤を構築するための共同オンサイト教育・研究 | アジア・アフリカ地域研究研究科 | 東南アジア地域研究研究所, アフリカ地域研究資料センター, 霊長類研究所, 農学研究科, 理学研究科, 野生動物研究センター |
| 京都大学ロンドン大学アート・サイエンス国際シンポジウムの開催 | 総合生存学館 | 人間・環境学研究科, 学術情報メディアセンター |
| 途上国の若手教員による国際教育研究活動の推進を通じた ASEAN 地球環境学インキュベーション | 地球環境学堂 | 工学研究科, 農学研究科 |
| 生命現象と経済現象を統合的に論じる先端的人文学に向けた国際共同研究事業 | 人文科学研究所 | |
| 若手研究者による人文科学諸分野の優れた研究成果の刊行助成事業 | 人文科学研究所 | |
| SDGs 達成を目指す次世代の超学際的イノベーションリーダー育成 | エネルギー理工学研究所 | エネルギー科学研究科, 生存圏研究所, 農学研究科, 防災研究所, 総合生存学館, 東南アジア地域研究研究所, 文学研究科, 情報学研究科, 生命科学研究科, 薬学研究科, 医学研究科, 医学部附属病院, 地球環境学堂, 化学研究所, 経済研究所, 高等教育研究開発推進センター |
| 京都大学が主導する複数大学・公的研究機関を横断する男女共同参画推進プログラム | 生存圏研究所 | |
| 物理学の国際研究拠点としてのプレゼンス向上のための国際広報活動 | 基礎物理学研究所 | |
| 国際連携強化による次世代若手育成事業 | 経済研究所 | |
| 東南アジア研究に関わる若手出版助成 | 東南アジア地域研究研究所 | |
| 実効的かつ総合的なアジア太平洋研究のための学内外研究プラットフォーム構築 | 東南アジア地域研究研究所 | 経済研究所, 総合生存学館, 法学研究科, 国際高等教育院 |
| シンポジウム：AI（人工知能）時代における医学教育と人材育成の課題 | 医学部附属病院 | |

大学の
動き

| プロジェクト等事項名 | 部局名 | 関連部局 |
|--|----------------|--|
| 深層学習技術による史資料のテキストデータ化の技術開発 | 学術情報メディアセンター | 経済学研究科, 理学研究科, 農学研究科, 人文科学研究所, 東南アジア地域研究研究所, 大学文書館, 学際融合教育研究推進センター(アカデミックデータ・イノベーションユニット) |
| SPOC を活用した ELCAS の拡充と京都大学 OCW 再利用を通じた高大接続の推進 | 高等教育研究開発推進センター | 高大接続・入試センター, 学際融合教育研究推進センター(高大接続科学教育ユニット) |
| ICOM 京都大会での発信に向けた大学博物館の国際・国内ネットワークの基盤強化 | 総合博物館 | |
| 福井謙一博士生誕百年記念事業実施経費 | 福井謙一記念研究センター | 工学研究科, 理学研究科, 化学研究所, 総合博物館 |
| 野生動物研究の発信強化および社会連携促進事業 | 野生動物研究センター | |
| 障害学生支援ルーム 10 周年記念事業 | 学生総合支援センター | 事務本部(教育推進・学生支援部) |
| 京大とブータンとの連携事業: ブータンでの GNH 学術交流シンポジウム「未来地球社会のための GNH: 京大ブータン友好プログラム国際シンポジウム」の開催 | 高等研究院 | 学際融合教育研究推進センター(ヒマラヤ研究ユニット), 東南アジア地域研究研究所, 霊長類研究所, 野生動物研究センター, 教育学研究科, 医学研究科, 医学部附属病院, 地球環境学堂, こころの未来研究センター |
| 京都大学アフリカ・オフィスを活用した教育研究活動, 広報・社会連携活動の推進 | アフリカ地域研究資料センター | 医学研究科, 農学研究科, 工学研究科, 理学研究科, 文学研究科, 法学研究科, 経済学研究科, 教育学研究科, 地球環境学堂, 人間・環境学研究科, アジア・アフリカ地域研究研究科 |

大学の
動き

| プロジェクト等事項名 | 部局名 | 関連部局 |
|---|-------------------------------|--|
| 京都大学アフリカ研究出版助成 | アフリカ地域研究資料センター | 医学研究科, 農学研究科, 工学研究科, 理学研究科, 文学研究科, 法学研究科, 経済学研究科, 教育学研究科, 地球環境学堂, 人間・環境学研究科, アジア・アフリカ地域研究研究科 |
| 留学希望者へキャリアプランや京都大学の魅力を提示するドキュメンタリー作成 | 事務本部（総務部） | |
| コンプライアンスガイドブックの作成・配布 | 事務本部（総務部） | 事務本部各部 |
| 学術分野越境推進による研究者研鑽活動と未踏領域創出 | 事務本部（企画・情報部 [学際融合教育研究推進センター]） | |
| 地域（京都）を志向した教育・研究・社会貢献のためのプログラム支援事業 | 事務本部（企画・情報部 [学際融合教育研究推進センター]） | 人間・環境学研究科, 理学研究科, 農学研究科, 東南アジア地域研究研究所, フィールド科学教育研究センター, 地球環境学堂, 工学研究科, 医学研究科, 教育学研究科, こころの未来研究センター, 国際高等教育院, 学術情報メディアセンター |
| ヘルシーキャンパス推進のための基盤構築事業 | 事務本部（施設部 [環境安全保健機構]） | 医学研究科, 学術情報メディアセンター |
| BXAI Summer Program 2019 京都大学 - 百賢岨州研究院サマープログラム実施事業 | 事務本部（教育推進・学生支援部） | 農学研究科 |
| 京都大学台湾カレッジ実施事業 | 事務本部（教育推進・学生支援部） | 国際高等教育院 |

(財務部(財務課))

[目次に戻る ↗](#)

大学の
動き

京大オリジナル株式会社を設立

京都大学は、指定国立大学法人のみが出資可能な子会社として、京大オリジナル株式会社を6月1日(金)付けで設立しました。

京大オリジナル株式会社は、研究成果として得られた京大の「知」を産業界/社会に発信し、その社会的価値を最大化するとともに、対価として得た収益によって研究環境を整備し、さらなる京大の「知」創出の基盤を築く役割を担う会社です。

同日の記者発表では、阿曾沼慎司 産官学連携担当理事より産官学連携の「京大モデル」の概要と意義、および京大オリジナル株式会社設立までの経緯と「京大モデル」における役割について説明がありました。続いて、京大オリジナル株式会社の宮井 均 代表取締役社長より、新会社の概要、事業内容について発表がありました。

京大オリジナル株式会社は、産官学連携を取り巻く昨今の大きな環境の変化を受け、研究者と産業界/社会の間に立ち、プロデューサー、コーディネーター、コミュニケーターの役割を果たすことで、京都大学の基本理念である「自由な基礎研究」を研究者に促し、そこから生まれる「大学の知」を産業界、社会につなげていくことをミッションとしています。

事業内容は、コンサルティング事業と研修・講習事業に大別されます。コンサルティング事業では、産業界との技術シーズ連携を進める産学コンサルティングと、大学側の技術シーズを発信するマッチングイベントに取り組みます。研修・講習事業では、企業幹部等の特定層向けの専門講座や、科学技術、文化芸術等、広く一般層に向けた教養講座を実施します。両事業とも、顧客のニーズを俊敏かつ的確にとらえながら、大学の技術ソースを産業界/社会に役に立つ形、わかりやすい形で提供していきます。



左より、阿曾沼理事、宮井社長

会社名 京大オリジナル株式会社 (Kyoto University Original Co., Ltd.)

株主 国立大学法人京都大学 (100%出資・完全子会社)

設立日 2018年6月1日

代表者 宮井 均 代表取締役社長

所在地 (本社) 〒606-8501 京都府京都市左京区吉田本町

京都大学国際科学イノベーション棟4階

(東京支社) 〒100-6510 東京都千代田区丸の内1-5-1

新丸の内ビルディング10階

事業内容 コンサルティング事業、研修・講習事業 等

電話 075-753-7777

E-mail kuo@kyodai-original.co.jp

ホームページ <http://www.kyodai-original.co.jp/>

(産官学連携本部)

[目次に戻る ↗](#)



ヘキサゴン・スプリングスクールを開催

人文社会科学分野初の共同学位課程となる「文学研究科京都大学・ハイデルベルク大学国際連携文化越境専攻」では、4月16日(月)から21日(土)までの期間、「ヘキサゴン・スプリングスクール2018」を開催しました。大阪大学でヘキサゴン(HeKKSaGOn)学長会議が開催されるのに合わせ、新専攻設置を記念する形で「文化越境研究を統合する」(“Integrating Transcultural Studies in HeKKSaGOn”)と題してスプリングスクールを開催しました。参加者は6大学より22名、うちドイツからの参加は11名となりました。

スプリングスクールは講義、フィールドワーク、研究発表の3部構成とし、講義は新専攻のカリキュラムに合わせ8コマ実施しました。フィールドワークは3班に分かれ、祇園、崇仁、千本のコミュニティ、立命館ゲーム研究センター等を見学しました。

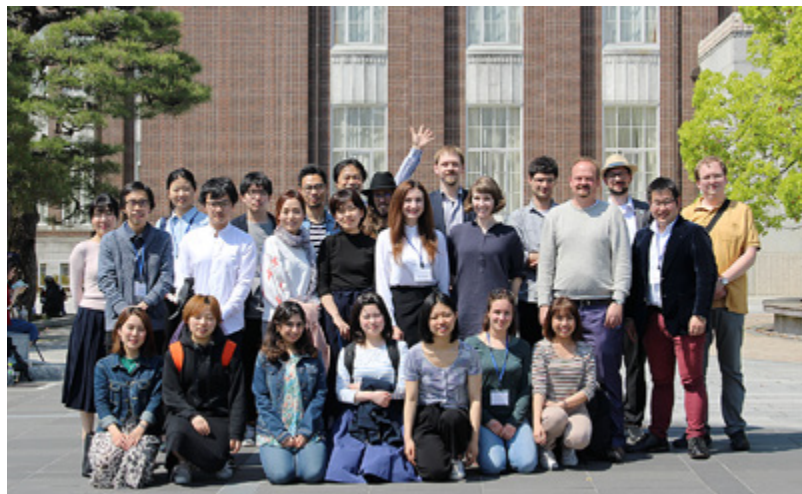


講義の様子



参加者によるポスター

研究報告については、参加者からの提案により、タンデム方式(ペアを組み、パートナーのテーマを代わりに報告するスタイル)を取りました。これには参加者間のコミュニケーションをとることで国際ネットワークを深める意図や、相手のテーマをトランスカルチャーの視点で洞察するという目的がありました。最後は平田昌司 国際連携文化越境専攻長, Harald Fuess ハイデルベルク大学文化越境大学院プログラム長より、修了証書が授与されました。今回のキックオフは両大学のみならず、日独の教育・研究交流に重要な布石となるものと思います。



参加者集合写真

(大学院文学研究科)

[目次に戻る ↗](#)



野生動物研究センター創立10周年記念事業を開催

野生動物研究センターは、設立10周年を記念して、シンポジウム・記念式典・祝賀会を6月11日(月)に開催しました。

芝蘭会館稲盛ホールで行われたシンポジウムでは、山極壽一 総長の祝辞と野生動物に関する講演の後、「野生動物との共存を目指して」をテーマに、村山美穂 センター長による「遺伝子から解き明かす野生動物の謎」、幸島司郎 教授による「野生動物の行動を理解する」、伊谷原一 教授による「アフリカの野生動物の研究と保全」、平田 聡 教授による「動物の心を探る」、田中正之 京都市動物園生き物・学び・研究センター長による「動物園との連携研究」の5つの講演が行われました。シンポジウムには一般参加者を含む約230名が参加し、講演後には質問が多数寄せられました。

引き続き行われた記念式典では、村山センター長の式辞、佐藤直樹 理事・副学長の祝辞に続き、門川大作 京都市長、堀場和夫 名古屋市副市長、西井知紀 文部科学省研究振興局学術機関課長より祝辞が述べられ、当センターが残してきた研究成果への賛辞と、将来への熱い期待が寄せられました。その後、松沢哲郎 特別教授による基調講演「知遇を得て50年、知己を待つ100年」が行われました。

芝蘭会館山内ホールで行われた祝賀会では、尾池和夫 京都造形芸術大学長(本学元総長)による挨拶および乾杯の発声があり、和やかな雰囲気の中、盛大に10周年を祝いました。



講演する村山センター長 祝辞を述べる山極総長



左から平田教授、伊谷教授、尾池元総長、山極総長、村山センター長、松沢特別教授、幸島教授、田中京都市動物園生き物・学び・研究センター長



式典後の集合写真

(野生動物研究センター)

[目次に戻る](#)



「医学物理・医工計測グローバル拠点」設立記念シンポジウムを開催

4月11日(水)、高等研究院本館において、同院寄附研究部門「医学物理・医工計測グローバル拠点 (iCeMS-CiMPhy = アイセムス・シムフィー)」の設立記念シンポジウムが、学内外の研究者、また海外からの招待講演者など100名以上の参加者を集め開催されました。

開会時では、まず同拠点の代表である田中 求 高等研究院寄附研究部門特任教授から挨拶と同拠点についての説明があり、続けて、湊 長博 理事・副学長・プロボスト、森 重文 高等研究院長、北川 進 高等研究院物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS) 拠点長からそれぞれ挨拶がありました。



開会の挨拶をする田中特任教授 挨拶する湊理事 森院長 北川拠点長

続けて、田中特任教授からiCeMS-CiMPhyが担う医学と物理の融合研究が目指す未来へのビジョンについての講演がありました。出席者全員での記念撮影後、同部門の客員教授であるAnthony D. Ho ハイデルベルグ大学教授(血液内科学)、Thomas Holstein 同教授(発生生物学)、太田隆夫 本学名誉教授(理論物理学)、Martin Bastmeyer カールスルーエ工科大学教授(細胞生物学)、吉川研一 同志社大学教授(本学名誉教授・非線形物理学)が、それぞれの研究と田中特任教授とのこれまでの連携、また寄附部門における研究計画などについて招待講演を行いました。



シンポジウム参加者集合写真

部局の
動き

閉会時には、田中特任教授から、新たな研究部門スタートについての喜びとともに感謝の辞が述べられました。

閉会后、高等研究院本館の見学ツアーとレセプションが行われ、今後の研究についての話題で盛り上がりました。

【関連リンク】

京都大学高等研究院

<https://kuias.kyoto-u.ac.jp/j/>

物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS)

<http://www.icems.kyoto-u.ac.jp/ja/>

医学物理・医工計測グローバル拠点

<https://cimphy.kuias.kyoto-u.ac.jp/>



乾杯の挨拶をする Ho 教授



iCeMS-CiMPhy 客員教授 (左から Bastmeyer 教授, Holstein 教授, 吉川教授)



iCeMS-CiMPhy のメンバー

(高等研究院)

[目次に戻る ↗](#)

生き方の自由度

佐野 睦典



私は現在、ベンチャーキャピタル（VC）と言う事業を行っています。VCとは、夢と才能のあるベンチャー企業に出資をすると共に、様々な事業支援を行うことによりその企業を上場までに持っていく仕事です。投資したベンチャー企業の中で、上場まで辿り着くのは多くても3割以下であり、それ以外の企業は投資元金がほとんど戻ってこないことも数多くあります。その点では大変にハイリスクな事業ですが、一方で上場した時には株価が10倍以上になることもある夢のある仕事でもあります。

ただ、リスクを好まない日本では、VCが大変少ないのが実情です。中でも京大法学部卒の独立系VCの経営者は殆どおらず、私の知っている限りでは私のみではないでしょうか。

そのような状況ですが、世の中の流れでしょうか、数年前に国策として大学発ベンチャー振興政策が打ち出されました。その中で、京大VCが設立されて300億円近い資金での運営が始まっており、隔世の感があります。

気がつくと、私がこの事業を立ち上げてから18年近く経ちました。おっとり屋の私がリスクの高いVCを長年に亘って経営してこられたのは、京大時代に出会った方々の影響を大きく受けているように思います。

私が京大法学部に入ったのは昭和45年（1970年）4月ですが、前年に東大安田講堂事件があり東大入試が中止になるなど学生運動が吹き荒れる中での大学生活のスタートでした。気持ちも落ち着かない中、受験勉強の解放感とが相俟って新しいことをしたい気持ちが高まっていました。ご多分に漏れず入学当初は学生運動にはまりデモ活動に精を出しましたが、大きなケガをしたこともあり、自然に遠ざかることになりました。その後は、サッカー同好会に興じたり、2ヵ月近いヨーロッパへのフーテン旅行などノンポリ生活を謳歌していました。更に、大学時代の思い出に、大学祭では時計台の大講堂を借り切ってフォークコンサートを企画し、かまやつひろしやジローズなどの当時人気のフォークシンガーによるコンサートを開き1,500人を集めました。ただ、大講堂とは言えキャパシティがオーバーした上に、大盛り上がりとなったため椅子や机が大きく破損する事態となりました。実はこのコンサートを認めていただいたのは私のゼミの先生で学生部長をしておられた川又教授でした。私は川又先生の教え子と言うことで、コンサートを快く認めていただいたにも拘わらず大変なことになったと翌日から仲間たちで必死に修理をして何とか元に戻すことが出来ました。その後、川又先生からは厳しくも暖かい訓示をいただきました。このようなことで、私は川又ゼミではどちらかと言えば劣等生の方でしたが、この事件で更に問題児になると共に印象に残る存在になったと思います。

このように、私にとって、京大では学問の自由度とは少し違うかもしれませんが、生き方の自由度を学ぶことが出来たと思っています。

そのような流れを受けて、就職についても、ほとんどの法学部の学生は公務員、司法関係、大銀行、大手製造企業などに就職しましたが、私は、新しい産業創出に関わりたいと思い野村證券に入社をしました。ただ、当時の証券会社は一般に株屋と呼ばれて二流扱いされてお

寸言

り、私も知人や親戚からかなり反対にあったものでした。ただ私は、まだ世の中に認められていないから、逆に将来性があるんだと考えて喜んで野村に就職することにしました。その後は、色んなことがありましたが、野村証券で3年勤めたあと、野村総合研究所で日米のニュービジネス調査を17年やり、その後は、日本最大のVCであるJAFCOで日本初の技術系ベンチャーファンドの運用に携わることが出来ました。

現在67歳になりいつまで現役で仕事をするのかと言われる歳になりましたが、気力と体力が続く限り、京大で身につけた生き方の自由度を最も必要とするVC事業に携わってゆきたいと思っています。

(さの むつのみ、イノベーション・エンジン株式会社代表取締役、昭和49年法学部卒業)

[目次に戻る ↗](#)

随想

入試改革の渦中で

名誉教授 大塚 雄作



本年3月に大学入試センターを定年退職し、37年間の常勤大学教員生活に一区切り付けたが、その間、何と言っても、京大にお世話になった2004～2014年の10年弱は、私にとって最も充実した時期であった。高等教育研究開発推進センターに在籍し、2008年度に義務化されたFD (faculty development) に関わって、京大のみならず、全国拠点として関西地区FD連絡協議会を立ち上げるなど、その時期ならではの経験もした。「教育評価の基礎」という全学共通科目を通して、ほとんどすべての学部との学生と触れ合うこともできたし、また、教育学研究科の協力講座として、優秀な大学院生との研究に関わる語り合いは何より楽しい時間であった。さらに、2010年度から仰せつかったギャングスターズの部長経験も、他に代え難い私の財産となっている。

そんな京大であったから、大学入試センターに異動する理由があったわけではないのであるが、遠距離単身赴任の身にとって、2013年秋の脳腫瘍手術の経験は小さいことではなく、私の先輩からの誘いを天の声としてそれに従った次第である。ただ、最後の4年間を大学入試センターで過ごしたことは、折からの大学入試改革の渦中であって、これもまたかけがえない貴重な体験となった。

大学入試センターに異動した当初は、CBT (computer-based testing) の検討委員会なども立ち上げられており、入試メディアが、紙筆からコンピュータへと間もなく移行するかという印象もあった。しかし、50万人を超えるすべての受験生に対して、実施上のトラブルが不可避であることや、何よりコストの問題もあって、それをすぐに実行に移すわけにはいかない障壁が多々残されていた。その代わりに、入試改革の目玉にされたのが、記述式問題と英語の4技能試験の共通試験への導入である。だが、それらもCBT以上の実施に関わる難題が多く残されていて、とても2020年度から始められる状況にはないというのが正直なところである。記述式も、4技能の「書く」「話す」という試験も、人が採点しなければならないという点において大きな問題が残されているのである。これらの採点は外部委託されていくことになるが、信頼できる採点者を集めるために、大学や高校の先生方が数多く動員されざるを得なくなる。そういう負担を大学や高校の教員がかぶる余裕があるのか、そのために受験料をどのくらい上げなければならないかなど、社会に十分共有されないまま進められてきている点が少なくない。しかも、その種の採点結果が安定しないという「採点者信頼性」に関わる問題は、教育測定学の領域では避け難い課題とされていることでもある。それは、いわゆる「採点ミス」とみなされることになり、受験者はもとより採点者も含めて多くの混乱が生じるのは必至である。

大規模な共通試験においては、そうしたミスの発生確率は小さなものであっても、出現数はそれなりの数に上ってしまうというのは、現在のリスニングのテストなどでも経験されているところである。リスニングテストは、「再開テスト」をはじめとする可能な限りの準備が蓄積され、ここまで大きなトラブルなく切り抜けてきているが、それはそう簡単なことではないのである。こうした問題をいろいろと抱えながら、新テストがその実施へと猪突

随想

猛進しているのを大変危惧しながらも、何もできないまま大学入試センターから離れることになってしまったのは、本当に何とも申し訳ない限りである。

大学の個別試験でも入試ミスが相次いで報道されるなど、入試の大変さは共通試験に限ったことではないが、少なくとも、個別試験に大学の主体性が発揮できる余地はまだ残されている。京大には、京大ならではの京大らしい入試にさらにチャレンジして行ってほしいと思う。それは、入試の担当者だけでできるものではなく、それぞれの立場で、大学教育の入口としての入試がどうあるべきかについて、自らのこととして考えていただき、お互いにぶつけ合うことを通して、京大発の入試改革なるものは、はじめて実現するものであろう。簡単なことでは決してないが、その点でも、京大はリーダーたりうる力を持っていると信じている。

(おおつか ゆうさく, 平成 26 年退職, 元高等教育研究開発推進センター長・教授,
専門は教育評価, 教育心理学)

[目次に戻る ↗](#)

話題

ハラスメント窓口相談員のための研修会を実施

ハラスメントに関する知識の習得および相談に対する資質向上を目的として、ハラスメント窓口相談員のための研修会を、6月7日(木)に実施しました。

潮見佳男 法務・コンプライアンス担当副学長の開会挨拶の後、北村雅史 理事補が本学のハラスメント対応制度について、中川純子 学生総合支援センター准教授がハラスメント相談の心構えについて、講演を行いました。



挨拶をする
潮見副学長



制度の説明をする
北村理事補



心構えなどを語る
中川准教授

各部局等のハラスメント窓口相談員および人権問題を取り扱う教職員 100 名以上が参加し、講演終了後には質疑応答も行われました。

(総務部(人事課))

[目次に戻る ↗](#)

アジア最大級の望遠鏡の愛称「せいめい望遠鏡」に決定！

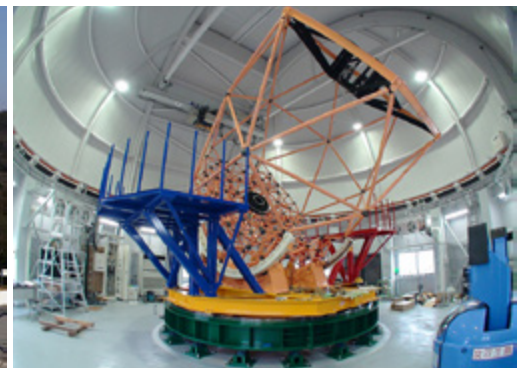
理学研究科附属天文台と宇宙物理学教室が、岡山県南西部の浅口市と矢掛町にまたがる竹林寺山系に開発・建設を進めてきた岡山天文台の3.8m新技術望遠鏡が、今年の夏いよいよ完成し、8月から観測がスタートします。それを受けて、昨年10月27日から12月20日まで愛称を募集したところ、海外からの応募も含めて1,036通の応募がありました。3月に選定委員会を開催して慎重に議論した結果、愛称は平安時代の卓越した陰陽師・天文博士の安倍晴明(あべのせいめい)にちなみ「せいめい望遠鏡」と決定されました。

安倍晴明は全国で天体観測を行った言い伝えがあり、岡山天文台の北西約2.3kmの阿部山の山頂付近には、安倍晴明が天体観測のためにかつて居を構えたと言われる阿部神社があります。このように京都と岡山の両方にゆかりのある天文研究の大先達にちなんだ名前となりました。また、この望遠鏡で目指すサイエンスの柱の一つである系外惑星の探査は、宇宙における生命(せいめい)の探査・研究にもつながっています。

せいめい望遠鏡は、8月の観測開始に向けて、現在急ピッチで調整が行われています。



岡山天文台全景



せいめい望遠鏡

(大学院理学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

話題

平成 29 年病院長賞表彰式を挙行

京都大学医学部附属病院は、4月16日(月)に病院長賞表彰式を挙行了しました。今回が3回目の表彰式で、約200名の教職員が出席しました。

この病院長賞は、本院における教育、研究、診療、管理運営等について、極めて顕著な貢献があったと認められる若手教職員または診療科等を表彰する制度として設けられ、全11組の個人および団体の推薦の中から4組の受賞者が決定され、表彰されました。

表彰式では、稲垣暢也 病院長より、表彰制度設立の趣旨および受賞者の選出方法について説明後、4組の受賞者および受賞内容について発表があり、表彰楯が授与されるとともに、祝辞が述べられました。

また、表彰式終了後には受賞者

の記念撮影が行われ、終始賑やかな雰囲気の中で盛況のうちに閉式しました。



受賞者発表を行う稲垣病院長

受賞した個人・団体の代表者の集合写真

平成 29 年病院長賞受賞内容

①腫瘍内科長 武藤 学 教授

武藤教授においては、2017年4月から、本院が保有する患者由来の高品質な生体試料を活用した、産学連携の医療開発プロジェクト「ワンストップクリニカルバイオリソース事業」の実施に向けて本格的な検討を開始し、企画から実現まで一貫して主導的な役割を担った結果、2017年11月にクリニカルバイオリソースセンターが設置され、2018年3月には株式会社KBBMが設立された。

また、本院のがんゲノム医療に係る体制整備においても中心的な役割を果たし、がんゲノム医療を牽引する高度な機能を有する「がんゲノム医療中核拠点病院」に指定された。

これらの業績により、本院の医療開発部門への貢献が認められた。

②地域ネットワーク医療部

地域ネットワーク医療部においては、連携医療機関への訪問活動を通して地域医療機関との連携強化および上位の退院支援加算算定に伴う病院運営ならびに退院支援の質向上に寄与したことにより、本院における地域・社会貢献部門の業績に大きく貢献した。

③QM推進委員会

QM推進委員会においては、本院における品質マネジメントシステムの構築およびその運用開始に尽力し、本院のISO9001認証取得に寄与したことにより、本院における運営部門へ大きく貢献した。

④高難度医療・未承認新規医薬品等管理室、高難度新規医療技術評価委員会および未承認新規医薬品等評価委員会

高難度医療・未承認新規医薬品等管理室および関係委員会においては、高難度新規医療技術の導入、未承認薬等を用いた医療の導入の際、当該医療技術および当該未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を迅速に審査するとともに運用体制を構築し、特定機能病院に求められる医療安全対策の強化に寄与したことにより、本院における医療安全部門へ大きく貢献した。

(医学部附属病院)

[目次に戻る](#)

話題

宇治キャンパスで「平成30年度新任教職員及び新入院生等のための安全衛生教育」を開催

宇治キャンパスでは、4月27日(金)に宇治おうばくプラザ きはだホールにおいて、「平成30年度新任教職員及び新入院生等のための安全衛生教育」を開催しました。

この講習は、安全に職務や研究を行うために必要な安全衛生に関する知識を修得することを目的として、新たに宇治キャンパスで実習・研究を実施する学部4回生、大学院生および新規配属の教職員等を対象に毎年実施しているものです。

今年度宇治事業場総括安全衛生管理者に就任した辻井敬亘 化学研究所長による開会の挨拶に始まり、『宇治事業場の安全衛生』、『衛生管理者による巡視とチェックリスト』、『物理実験および計算機関係』、『日々の安全と危険予知等について』、『喫煙問題』、『健康管理・応急手当』、『生物実験および放射線取扱』、『化学物質管理および実験系廃棄物管理』、『実験排水』に関する説明があり、計273名(学生195名、教職員78名)の受講者は熱心に耳を傾けていました。



辻井研究所長による開会の挨拶



会場の様子

(宇治地区事務部)

[目次に戻る ↗](#)

京都大学研究資源アーカイブが新たな資料を公開

京都大学研究資源アーカイブは、5月23日(水)に、新しくデジタルコレクションを公開しました。

京都大学研究資源アーカイブは、本学における教育や研究のプロセスでつくられた資料群を体系的に収集・整理・保存し、「研究資源」として学内外で利用可能にする取り組みです。

今回公開したのは、「上山春平研究資料, 1807-2002 (主年代1933-2002)」です。

哲学者の上山春平(1921~2012)による研究活動において、おもに1933年から2002年に作成または収集された資料で、手稿、ノート、スクラップ、複写物、書簡、写真等が含まれます。資料を区分する研究テーマ(「カント研究」「憲法草案」「照葉樹林文化」「如意寺」等)や時代

話題

(「高校時代」「大学時代」「田辺時代」「岡崎時代」等)は、上山春平の思考のあゆみを辿るヒントとなります。このうち未刊行論考は、本事業で初めて公開となる資料です。また、「人類学」や「アフリカ研究」等の1960年代の京都大学における新たな研究領域の開拓の記録や、研究者(今西錦司, 牧 康夫, 山下正男, 堀 正人, 田岡 宏, 林 巳奈夫, 福永光司, 辻村喜一, 岡村圭真)との書簡等は、個人研究の資料とは異なるかたちで、当時の研究の様子を多面的にいまに伝えます。

[出所・作成]

上山春平 (Shumpei Ueyama, 1921-2012)

[資料年代]

1807年～2002年(主年代1933年～2002年)

[公開年]

2018年

[数量]

約1,600件(段ボール箱20箱)

[メタデータ]

1,629レコード

【関連リンク】

京都大学研究資源アーカイブ

<http://www.rra.museum.kyoto-u.ac.jp/>



マルクス主義的明治維新論の検討：思想の科学, FoLs MSS 2015/02/03-06-01.



新憲法私案, FoLs MSS 2015/02/01-06-01.

(総合博物館)

[目次に戻る ↗](#)

訃報

このたび、小林昭一 名誉教授、矢島治明 名誉教授、白土博通 教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。以下に 各氏の略歴、業績等を紹介します。

小林 昭一 名誉教授

小林昭一先生は、2月27日に逝去されました。享年82。

先生は、昭和33年京都大学工学部土木工学科を卒業、昭和33年同大学院修士課程を修了し、昭和35年4月京都大学工学研究所助手に採用され、工学部助教授を経て、昭和51年教授に就任、土木設計学講座を担当されました。この間、昭和47年に京都大学工学博士の学位を授与されました。

平成3年から新しく創設された工学研究科環境地球工学専攻地圏工学講座に担任換えの後、平成11年停年により退職され、京都大学名誉教授の称号を受けられました。

本学退職後は、平成11年4月から平成20年3月まで福井工業大学教授を務められました。

先生は応用力学、固体力学、計算力学において顕著な研究業績を残され、その発展に寄与されました。特に境界要素法の開拓者の一人として著名であり、基礎理論から応用まで幅広い研究を行われました。さらに、岩盤力学、超音波計測、非破壊評価法などの実験的な分野においても顕著な業績を残されました。これらの研究は231篇の学術論文と『波動解析と境界要素法』をはじめとする27冊の書籍（編著、分担執筆）にまとめられています。

また、国際境界要素法学会（IABEM）の共同設立者となり、平成2年7月から平成3年6月まで同会長、平成8年5月から2年間日本材料学会会長を務められたことに加え、文部省大学設置審議会専門委員、日本学術会議研究連絡委員等を務められ、学術行政にも尽力されました。

先生は、これら一連の教育研究活動、学界活動により、平成27年11月瑞宝中綬章を受けられました。



（大学院工学研究科）

[目次に戻る ↗](#)

訃報

矢島 治明 名誉教授

矢島治明先生は、5月7日に逝去されました。享年92。

先生は、昭和25年京都大学医学部薬学科を卒業、同年黒田製薬(株)研究員を経て、昭和26年大阪大学医学部薬学科助手に採用されました。昭和35年米国ピッツバーグ大学医学部研究助教授、昭和37年京都大学薬学部助教授に採用され、昭和48年同教授に昇任されました。平成元年3月停年退職し、同年4月に京都大学名誉教授の称号を授与されました。その後も引き続き、新潟薬科大学学長として薬学の教育・研究に尽力されました。

先生は、特にペプチド化学において極めて重要な研究成果を挙げられました。ペプチドの合成研究は、昭和32年より米国ピッツバーグ大学医学部クラウス・ホフマン教授のもとで開始されました。昭和35年には独創的な手法で副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)の活性を有するペプチドの化学合成に成功され、この研究成果は日本人として初めてアメリカ化学会ケミカルエンジニアリングニュースの表紙を飾りました。そして先生は、創生期にあった米国ペプチド化学界において、ピッツバーグ大学研究助教授として活発な研究活動を展開されました。帰国後は、京都大学薬学部において、我が国のペプチド合成化学の草分け的存在として、薬学分野に初めてペプチド化学の礎を築かれました。数々の新しい化学的手法をペプチド合成化学に導入し、脳下垂体ホルモン、視床下部ホルモン、消化管ホルモン、ニューロペプチドなど、種々の生理活性ペプチドの全合成を次々と達成されました。これらの研究の集大成として、昭和55年には酵素タンパク質リボヌクレアーゼAの完全化学合成を成し遂げられました。これらの業績により、先生は日本薬学会賞(学術賞)、有機合成化学協会賞、日本学士院賞、勲二等瑞宝章等を受賞・受章され、米国NIHフォガティ国際学者に任命されました。先生は人材の育成にも力を注がれ、アカデミアや産業界で活躍する多くの卒業生を輩出されました。

先生は、日本薬学会会頭、日本学術会議会員、科学技術会議専門委員など多くの学協会要職を歴任され、学内においても京都大学薬学部長や評議員を務められるなど、我が国の学術振興と京都大学の管理運営に貢献されました。

(大学院薬学研究科)

[目次に戻る ↗](#)



訃報

白土 博通 教授

白土博通先生は、5月31日に逝去されました。享年61。

先生は、昭和54年3月京都大学工学部土木工学科を卒業、昭和56年3月同大学院工学研究科修士課程を修了、平成元年京都大学工学博士の学位を授与されました。昭和56年4月京都大学工学部助手に採用され、助教授、准教授を経て、平成21年1月教授に就任、社会基盤工学専攻・構造工学講座・橋梁工学分野を担当されました。

先生は、長年にわたって風工学、特に橋梁構造物の耐風性に関する分野で数々の研究業績を残され、国内の長大橋の実現に多大な貢献をされました。一連の研究成果に対して、平成元年および平成25年土木学会田中賞論文部門、平成14年日本風工学会学会賞（論文賞）、平成19年土木学会論文賞を受賞されています。

また、国際協力機構の「ミャンマー工学教育拡充プロジェクト」に参画され、ミャンマーの大学における土木工学教育のレベルアップに尽力されました。さらには、日本風工学会、土木学会などにおいて、理事、委員会委員長などの要職を務められ、将来の耐風工学・風工学の分野を、国際的に牽引していくことを期待されていました。



(大学院工学研究科)

[目次に戻る ↗](#)